

# MASセミナー 第16回

## 「日本の街並みはなぜ美しくないのか」

2014.07.26 (土) PM 2:00 ~  
JIA建築家クラブにて



日本建築家協会 関東甲信越支部 港地域会

### 混在をみとめつつ

東京の街を表現する言葉の一つに『混在』という言葉があります。確かに言い得て妙なのですが、日本の都市を近代という歴史で観るとき、この事はむしろ、自然なことであったかと思えます。問題は、混在を形成している因子としての個々の建築をはじめとする、街を形成するパーツの完成度の低さにあります。美意識に裏打ちされた普遍的な法則に基づいたシステムの構築こそ考えていかねば、良質な街は今後も望めません。今、一つの可能性を感じるシステムが建築家の間で提唱されつつあります。



今井 均

### 大きな過渡期に

明治になって洋風建築が、文明開化の象徴の一つとして、国民の願望の実現手段のように受け入れられました。あれから150年あまり、日本人は伝統建築を否定はしなかったが、「まちづくり」の主役として開発することは無かったです。その過程で出会った大戦や震災の経験から、防災、安全の観点からも、技術の発展による新素材、新工法によっても、更には商業主義の発展によっても、街の姿は、美のルールも無いまま勝手な変貌を遂げてきたのです。行政が、というより我々日本人自身が、どうしていいかわからなかったのです。今やっと、この長い体験を踏まえて、大きな反省と今後の展望を見据える時代に到達したのです。さあ、これから、100年後の美しい日本の「まちづくり」を考え、我々に出来ることをやってみましょう。



大倉 富美雄

### 市民目線で考える街並みの美しさ

言うまでもありませんが街並みの形成は個々の建物だけではなく周辺の道路や公園、街路樹や街灯、看板や交通標識など多岐にわたります。唯、それを印象付けている最たるものは建築物とその形態、質感、色、高さと併せ建物相互の関係性にあることは間違いないでしょう。都市というものが基本的に城塞都市であったヨーロッパの歴史や文化に根ざした街と同列に日本の街並みを論じることは勿論出来ません。が、優れた美意識、隣人や周囲への気配り、謙譲心など、もともと日本人がもっていた精神性、文化をテコに少しでも自分たちの街を暮らし続けたい、人を呼びたい、そんな街にしたいと思います。



鈴木 理巳



- MASセミナー「日本の街並みはなぜ美しくないのか」  
MAS Record
- 5th 2011.10.29 「ドイツで活躍する建築家から見る日本の街並み」
  - 6th 2012.03.24 「バルセロナの街と建物」
  - 7th 2012.06.30 「建築家は街にどのように関われるのか」
  - 8th 2012.11.03 「我々はどこに住むべきか」
  - 9th 2013.02.23 「暮らしをどう取り戻せるか」
  - 10th 2013.05.18 「シェア(分かち合い、共有)が美しい街をつくる？」
  - 11th 2013.07.06 「暮らしから街並みを考える」
  - 12th 2013.09.14 「建築家がつくる小規模建築の魅力」
  - 13th 2013.12.07 「しあわせを感じる建築の色、街の色」
  - 14th 2014.02.08 「心を紡ぐ建築」
  - 15th 2014.04.26 「心をつむぐ建築II こどもの居場所」
  - 16th 2014.07.26 「日本の街並みはなぜ美しくないのか」



### 町並みを作るみえない力

町はひとつひとつの建築の集合体です。そして今の日本の建築の建ち方を決定するのは建築基準法であり高さ制限や容積率といった定量的なルールです。合理的で便利なこのシステムのおかげで、私たちは美しい町とはどんな町か、というテーマを日常的に考えたり話し合ったりする機会を失ってしまったのではないのでしょうか。町の美しさは、住む人が大切にしている町に対する共通の価値や、行動の習慣によって生まれるものだと思います。同時にある環境や建築が、人の行動を変える力も持っています。そのような見えない力について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



田口 知子

### 精神の輝きは時を超える

私たちは等しく歳月を経た時、外側は大方古びてまいります。しかしその中において精神の輝きのある方からは、凛とした美しさが醸し出されるものです。建築も同じだと思います。建築は人間の文化の表象そのものなのでしょう。向こう三軒両隣へ気配りできる佇まい、後世へ受け継がれるべく設えることとは如何にあるべきかが思考され、覚えられた建築が連なる街であれば自然に見えない秩序と品が醸成されるものと感じています。土地が養える限界を超えた密度でまちを形成してはいけないのだと感じております。



村上 晶子

### 物語性のある街並が美しいと感じる

美しいと感じる街は、その街で延々と引き継がれてきた何かを感じるからではないのでしょうか？ 専門家が歴史的に貴重だから、あるいは機能的でデザインされているから、といったものではなく、住んでいる方が大切に物・気持・精神が息づいていることが大切だと思います。新しい街にしても、元々そこにあったゲニウス・ロキ(地霊)を如何に活かしているか、といったことが問われるのではないのでしょうか。そこで営まれる生活と都市との関係が織りなす物語性という視点が大切だと思います。



連 健夫  
(むらじ たけお)